

使徒聖ペトロ後書簡

冒頭。

第一章 イエズス、キリストの僕たり且使徒たるシモン、ペトロ、我神にして救主に在すイエズス、キリストの義によりて、我等と等しき信仰を得たる人々に「書簡を贈る」。二願はくは、神及び我主イエズス、キリストを熟知し奉る事によりて、恩寵と平安と汝等に加はらん事を。

第一項 益徳行を積むべき必要及び其所以。

三キリストの神にて在せる大能は、其固有の光榮と能力とに由りて我等を召し給ひし神を知らしめて、総て生命と敬虔とに益する所のものを我等に賜ひしものなれば、四又其光榮と能力とに由りて最も大いなる尊き約束を賜ひしは、汝等をして依りて以て此世に於る情慾の腐敗を避けて、神の本性に與る者たらしめ給はん為なれば、五汝等も亦十分に注意して、汝等の信仰に徳を加へ、徳に學識、六學識に節制、節制に忍耐、忍耐に敬虔、七敬虔に兄弟的相愛、兄弟的相愛に愛一徳一を加へよ。八蓋若是等の事汝等にありて増加せば、汝等をして我主イエズス、キリストを識り奉るに於て、働かざるもの果を結ばざるものたらしめじ。九是等の事なき人は言にして遠く見る能はず、其既往の罪

を潔められし事を忘れたる者なり。一〇然れば兄弟等よ、汝等の召されし事、選まれし事を、善業を以て愈固つするに努めよ、然て之を為すに於ては何時も躓く事なかるべし。一一其は我主にして救主に在すイエズス、キリストの永遠の國に入るの恵を豊に加へらるべければなり。一二故に汝等が現に此眞理を知り、且固く此上に立てるに拘はらず、我尙常に汝等をして是等の事を記憶せしめんとす。三思ふに我が此幕屋に居る間は、此記憶を以て、汝等を励ますに至當なりとす。四我は我主イエズス、キリストの示し給ひし所に従ひて、我が此幕屋を下す事近きに在りと確信するが故に、一五世を去りし後も汝等をして、屢是等の事を思出さしむる様勉めんとす。一六蓋我等が主イエズス、キリストの能力と降臨とを汝等に告知らせしは、巧なる寓言に基けるに非ずして、其威光の目撃者とせられてなり。一七即ち彼は神にて在す父より尊厳と光榮とを賜はり、偉大なる光榮より聲之が為に下りて、「是ぞ我心を安んぜる我愛子なる之に聞け」と言はれしなり。一八我等彼と共に聖山に在りし時、此聲の天より來りしを親しく聞けり。一九又尚固くせられし預言者の言我等に在り、汝等之を以て暗き所を照らす燈とし、夜明けて日の汝等の心の中に出づるまで之を省みるを善しとす。二〇先斯事を知るべし、即ち聖書の預言は総て一個人の解釈を以て解せらるるものに非ず、二其は預言は普人意に由りて齎されずして、神の聖人等が聖靈に感動せられて語りしもの

なればなり。

第二項 偽教師に對する事。

第二章一民の中には偽預言者すら在りしが、斯の如く汝等の中にも亦偽教師ありて、亡の異端を齎し、己を贖ひ給ひし主を否み、速なる亡を己に招かんとす。二而して多くの人は彼等の放蕩に做ひ、眞理の道は彼等の爲に罵らるべし。三彼等は貪欲なるが故に、空言を以て汝等に就きて利する所あらんとする者にして、其審判は昔よりありて今に歇まず、而して其亡は眠らざるなり。四蓋神は罪を犯したる天使等を赦し給はずして、之を地獄の暗黒に繋置き、苦に委ねんとして審判を待たせ給ひ、五又昔の世を赦し給はずして、義の宣教師たるノエの一家八人を守り、敬虔ならざる者の世に洪水を至らしめ給ひ、六ソドマ、ゴモラの都會を化して灰と成らしめ、不敬虔に生活すべき人々の見せしめとして、之を全滅に處し給ひ、七又義人ロトが非道の人々より侮辱と放蕩なる振舞とを以て惱まざるを救出し給へり。八其は此義人彼等の中に住み、彼等が不義の行を見聞きして、日々其正しき心を痛め居たればなり。九主は敬虔なる者を患難より救ふ事、又審判の日に罰せらるる様不義者を保留する事を知り給ふ。一〇況や肉に従ひて穢らはしき情慾の中に歩み、主権を輕んじ、大膽横柄にして光榮あるものを罵るを畏れざる人々をや。二能力と權威とに於て「彼等に」優れる天使等

すら、光榮あるものに對して侮辱の評を加へざるに、二彼等は恰も捕へられて屠られん爲に生れたる智慧なき獸に齊しくして、己が知らざる事を罵りて不義の報を受け、亡に歸すべし。一三彼等は實に汚染なり、汚穢なり、一日の愉快を樂とし、肉の歡樂を求め、其會食に於て汝等と共に放蕩を極め、四其目は姦通に充み、罪に飽かず、精神堅固ならざる者を誑し、其心は貪欲に鍛鍊して詭の子たり。一五不義の報酬を好みソゾルの子バラアムの道を辿り、正しき道を離れて迷へり。一六彼は其罪を咎められて、言はぬ驢馬は人の聲にて語り、以て預言者の愚を戒めたりしが、一七彼等は水なき井、嵐に吹遣らるる雲にして、之に残るは闇の暗さなり。一八蓋傲慢の直言を語りて迷へる者に暫し遠ざかりたる人々を、放蕩を以て肉慾に誘ひ、一九之に約するに自由を以てすれども、自らは腐敗の奴隷たり、其は人物に勝たるれば其奴隷と成ればなり。二〇抑彼等は我主に於て且教主に在すイエズス、キリストを知り奉りし爲に、一旦世間の穢に遠ざかりて後、再び之に負けて纏らるれば、其後の状態は前に優りて惡く成れり。二一蓋義の道を知らざるは、寧之を知りて後、傳へられたる聖誠を遠ざかるよりは彼等に取れて優りし也。二三眞の諺に、其吐きたるものに還れる犬と云ひ、洗濯められて泥の中に転ぶる牝豚と云へるは彼等に當れり。

第三項 キリストの降臨及び世の終

第三章一至愛なる者よ、我が今此第一の書簡を贈るは、此兩の書簡を以て汝等の正直なる理性を喚起し、二聖なる預言者等の預め語りし言、及び汝等の使徒等の傳へし、教主にて在す主の命令を記憶せしめん為なり。三先此事を知るべし、末の日には己の慾に従ひて歩める嘲弄者等來りて言はん、四其降臨の約束は何處にかある、先祖等の眠りし以來、開闢の初に齊しく、総て變わる事なきに、と。五彼等は、故に次の事を知らざるが如し。即ち原天あり、地も亦神の御言によりて、水より出でて水を以て成立ちたりしに、六其時の世は、又神の御言と水とにより、水に溺れて亡びたりき。七然るに今在る所の天と地とは、同じ御言を以て保存せられ、火に焼かれん為に、敬虔ならざる者の審判と亡との日まで保たるるなり。八至愛なる者よ、汝等斯一事を知らざるべからず、即ち主に於ては一日は一千年の如く、一千年は一日の如し。九或人々の思へるが如くに、主は御約束を延し給ふに非ず、唯人の亡ぶるを好み給はずして皆改心するに至らんことを好み給ふにより、汝等の為に忍耐を以て處置し給ふなり。一〇然れど主の日は盜人の如く来るべし、其時天は大いなる轟を以て去り、物質は焼毀れ、地と其上なる被造物とは焼毀びん。二斯の如く萬物の毀るべきを覺りて、汝等は如何にも聖なる行状及び敬虔の業に於て、三主の日の来るを待ち、且之を早むべきなり。彼日に當りて、天は燃毀れ、物質は

火勢を以て鎔かさるべし。三然れど我等は其約束に従ひて、義の住む所の新しき天と新しき地とを待つなり。四是故に、至愛なる者よ、自らは等の事を待ちつつ、平和に於て汚染なく瑕疵なく認められん事を努めよ。一五又我主の忍耐を救なりと思へ。我等が至愛の兄弟パウロが、其賜はりたる知識を以て汝等に書贈り、一六又凡ての書簡に於て是等の事に就きて語りしが如し。彼が書簡には往々啖り難き所ありて、無學者と心の堅からざる者とは、他の聖書を曲解するが如く、之をも曲解して自ら亡に至る。一七然れば兄弟等よ、汝等は豫め之を知りて注意せよ、不法人の迷に誘はれて己が堅固を失ふこと勿れ。一八却て益恩寵を増し、益我主にして且教主にて在すイエズス、キリストを識り奉ることを努めよ。今も永遠の日にも、光榮彼に歸す、アメン。